



式典において常陸宮正仁親王殿下からお言葉を頂いた

常陸宮同妃両殿下ご臨席の下に母校創立
百三十周年記念式典が挙行された



第42号

平成24年1月15日発行
 日本獣医生命科学大学
 同窓会
 東京都武蔵野市
 境南町1-7-1
 発行者 中條 眞二郎
 直通電話・FAX
 0422-33-2916
 E-mail dosokai@nvl.ac.jp
 URL <http://nvl-dosokai.academic-sol.com/>

平成23年9月18日（日曜日）午後1時30分より東京千代田区の帝国ホテル孔雀の間において、
 母校創立百三十周年記念式典が開催された。（二面へ）



式典において祝辞を述べる中條同窓会会長



式典終了後会場に居合わせた同窓生の集合写真

式典には常陸宮同妃両殿下、国会議員、農林水産省、自治体、学校法人日本医科大学教職員、日本獣医生命科学大学教職員、学生代表、同窓生はじめ多くの方々への参列のもと挙行された。

新井敏郎獣医学部長の司会で開式され、赫学校法人日本医科大学理事長の挨拶、池本学長の式辞がなされた。

続いて常陸宮殿下のご挨拶を頂き、その後中條同窓会会長、吉住父母会会長、来賓の鹿野農林水産大臣、文部科学省より祝辞が述べられた。

式典の最後に、母校発祥の地である真言宗豊山派大本山護国寺の岡本貫首、大学縁故者梅野信吉先生のご親族である橋本信一郎氏、梅野和子女史および秋本誠一氏の4名へ感謝状が授与された。

式典を始めとする、当日開催された130周年記念事業は学校法人日本医科大学赫理事長、日本獣医生命科学大学池本学長、同窓会中條会長3名の主催による。

(集合写真は、同窓会ホームページの第42号会報を拡大してご覧いただけます。)

母校創立130周年記念学術講演会が開催される

平成23年9月18日(日曜日)、母校創立記念式典終了後、同ホテル富士の間において記念学術講演会が開催された。

ジャーナリスト田原総一朗氏を講演者に迎え、今井大学院獣医生命科学研究科長の司会、池本学長を座長として、「時代を読む」と題した記念学術講演が多く聴衆を迎え行われた。講演後、聴衆との質疑にも熱が入り、予定時間を超過しての講演会となった。

講演終了後学長より田原氏へ感謝状が贈呈された。



立ち上がれ日本・ 立ち上がろう同窓生

日本獣医生命科学大学同窓会会長

中 條 真二郎



同窓の皆様、新年お目出とうございます。今年ほど良い年になって欲しいと願ったことではないでしょうか。「禍福は糾える縄のごとし」今年も、会員皆様にとって良い年となることを願っております。

先年、桃の節句を迎えた時季に「東日本大震災」に見舞われた多くの会員とご家族の皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。当日、母校においては学位記授与式が行われておりました。このような大きな地震を体験したことがなく、立っているのが精一杯でした。地震後の津波の放映は、現実か夢なのかただ茫然とテレビの画面を見つめるばかりでした。さらに福島原子力発電所の水蒸気爆発が起こり、悪夢の3月11日となり、小生は同窓生の無事を祈るばかりでした。

神戸大震災を教訓にイヌ・ネコの介護と保護活動の拠点を石巻に置き、母校臨床教員数人が常駐し現地の獣医師と共に支援活動を、暑い中八月までご苦労されました。母校教員のみならず全国の獣医師が被害に遭った動物の保護と里親探しなど支援活動が行われました。参加された同窓生による温かな支援活動

がされ、助けられた動物は声に出すことはできませんが、飼主共々感謝していることと思います。大震災・原発事故による復興は今後何年続くか想像もできないほどの大災害となりました。

畜産関連の被害も深刻です、この様な状況ですと人間が優先されるのはやむを得ないことです。しかし、家畜・家禽は訴える術が無く惨憺たる状況です。津波による畜産関連の被害額は、漁業などに比べ少ないこともあり報じられません。食用に供する家畜・家禽も津波の被害に遇い、畜産業に復帰する畜産家がいなくなるのではと心配されています。福島原発の影響も、乳牛が繋留されたまま餓死したり、放射線に被曝した牛など殺処分と国が早々に決定しました。福島原子力発電所から約十キロ離れた南相馬の牧場を母校教員と視察しました。牧場は地震による地割れがみられ、牛は放牧されて牧草を食べ生ながら生きていました、時間になると群れを作り牧舎に戻ってくる姿が今でも目に焼き付きます、あの牛たちの末路を思うと今でも胸が痛くなります。

地震・津波・原発による畜産業界の被害には、国から何らかの補償があります。しかし、それに従事する獣医師は診療する動物がいなくなり職を失いかねません。獣医師に対する補償は誰が、どの様に支援するのでしょうか。

2011年は、同窓生にとって悲喜こもごもの年で、3月11日の大震災と母校130周年の記念の年が重なってしまいました。

130周年記念式典・祝賀会の開催は、以前から教員・事務職の準備にかけてきたご苦

勞に報いること、130年目は一度しかありません。悲しみに耽るばかりでなく「がんばれ日本」を実行するの次代に一步を踏み出す為の力になるであろうとの、法人執行部の気遣いもあったと聞きます。

式典・祝賀会は、学内の法人職員と教職員、同窓生及び外部の関係者合わせて八百数十名の予定で企画しました。同窓生の式典・祝賀会の参加は会報41号でも広く参加を呼びかけました。

式典に来賓として常陸宮殿下・妃殿下をお迎えできましたのは、両殿下のご愛犬のお世話をしている大13期卒の齋藤正興氏のお口聞きがあったと聞きます。創立記念への皇族のご臨席は初めてで母校の歴史に燦然と刻まれることと思います。また常陸宮殿下からは、心のこもった温かいお言葉を賜り、光栄の至りでした。さらに現役の鹿野農相、自民党元石波政調会長などのご出席も戴き、厳かで格調高い式典を行うことができました。参加した同窓生一同も感激し、130年から一歩踏み出した母校を誇りに思い、明日から一層の励みとして帰路につかれたものと思います。

会員の皆様にお届けしました同窓会名簿、新たな懐旧の情が甦ったのではないのでしょうか。同窓会が自慢できることは、卒業生の大半の同窓生の名簿管理ができていることです。現在9000名の会員に郵送し、返送は極僅かです。名簿は同窓会の財産ですから大事に（特に業者などへの流出）扱って下さい。各種同窓生の集会でのご利用が可能です、名簿を活用して、同窓会の理念であります同窓同志親交を深めて下さい。食品科学科と動物科学科の第一期卒業生は

昭和46年、47年卒、既に60才の定年を迎える年齢になっております。同窓会は歴史的なこともありますが、獣医学科の同窓会と思われ、他学科からの参加者が増えております。今後、全学科の同窓会と認識される会を目指し、会則改正委員会を設置し問題点を検討し、24年度代議員会までに改正案を作成する様に取り組みます。

以前、百三周年記念事業のご寄付のお願いを送付させて頂きました。

この事業は、応用生命科学部と獣医保健看護学科の教育研究施設を第一校舎に新設し、施設の充実を図る計画です。この建物には、念願の武道場の設置が計画されています。第一校舎からグラウンドが消えますが、代替に東大農場跡に運動場を確保する計画です。今回の記念事業は、学生の厚生施設も計画されています。近い将来、武道場、運動場、馬場が新設された時の学生の喜ぶ顔が想像できません。一層クラブ活動も盛んになり、夢であった対外試合を母校で開催できるかも知れません。同窓生の温かい支援によって夢を実現させて欲しいと願っております。この事業計画は五月から着手される予定となっております。

学生の厚生施設を充実させ、立地条件の良い武蔵境で21世紀に母校を更に発展させることのできるのと同窓各位の大きな支援協力によるものと確信しております。

後ほど、事業の趣意書を再度お届けします、私の思いの程をご理解賜りたく何卒趣意書の一読を強くお願い致します。

後輩のために「立ち上がろう同窓生」

平成二十三年度 同窓会理事会・代議員会開催

平成 23 年 9 月 17 日（土）午後 1 時より、母校 B 棟 313 講義室にて代議員会が開催された。代議員会に先立ち午前 10 時より理事会・幹事会が開催され、代議員会の議案書に対する討議が行われた。その結果問題なく代議員会へ議案書を提出することとなった。

平成 23 年度代議員会は、吉田孝治事務局



長の開会宣言で開会された。

当日の出席者は、来賓 1 名、顧問 1 名、常務理事 11 名、理事 20 名、監事 3 名、代議員 53 名、オブザーバー 3 名であった。中條会長の挨拶に次いで、来賓池本学長の挨拶があった。

議長選出・司会者により議長選出が行われた。

規約により代議員の中から 2 名選出となっているので、候補者に拳手を願ったが、立候補者がなく、司会者により午前中の理事会で推薦された熊本県支部の福岡代議員、千葉県支部の早坂代議員に御願いする提案があった。拍手により承認された。

書記及び議事録署名人選出・司会者より説明があり、予め依頼していた母校獣医保健看護学科の戸張由美子さんが推薦された。議事録署名人には大学支部の左向代議員、新井代議員が推薦された。拍手により承認された。

議長 2 人が着席。
議長・本日の出席者は、先に報告のあった通りです。

議事に入ります。

第一号議案 平成 22 年度事業報告

総務担当相見理事より説明。

年度末の 3 月 11 日発生した東日本大震災により被災された同窓生の方々に、謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

特に岩手・宮城・福島三県にお住いの同窓生の被災状況が未だに正確に分かっておりません。同窓会として緊急にお見舞いを検討しましたが、このように大変な状況です。支部で状況の把握ができれば第個人々にお見舞いを考えております。

平成 22 年度の主たる事業計画は、母校創立 130 周年記念事業に関連した事業計画で名簿の無料配布をした。住所が明らかでない同窓生全員および準会員に配布させて頂きました。

今回の名簿は、会員のご協力によって内容もより良い名簿を編集することができました。会員に送付した数は同窓会始まって以来 1 万冊を超す発行部数となり、本事業に要した予算は特別会計で積み立てた資金で賄うことができました。獣医・動物・食品・看護の同窓生に広く配布され、母校創立 130 周年記念事業として記念になるものと確信しております。

前記した震災被害が 3 月決算末でしたので、通常同窓会事業と業務について滞りなく執行されたことを報告します。

実施事業

1 平成 22 年度代議員会開催



平成 22 年 7 月 24 日（土）、母校 B 棟第 412 講義室にて代議員会 代議員会終了後ムラサキにて懇親会開催

2 役員会および委員会等の開催

3 全国支部総会への派遣（資料参照）

4 母校 130 周年記念会員名簿の作成および発送

5 会報 41 号発行…平成 23 年 1 月 27 日

6 第 26 回母校学術交流会への協賛およびポスター優秀賞副賞の協賛

7 大学への支援…梅野信吉賞記念盾および副賞を贈呈

8 宮崎県口蹄疫援助金への協賛

9 学生会員（準会員）への関連事業

(1) 入学祝い

(2) 卒業祝い

- (3) 同窓会褒賞・各学科の卒業生一名、計4名に授与
 - (4) 大学祭への支援
 - (5) 就職支援活動
 - (6) 奨学生申請学生の審査
- 拍手により承認された。
- 第二号議案 平成22年度収支決算**
 経理担当寺田理事より説明
 収入の部…資料参照
 支出の部…資料参照
 財産目録…資料参照
 平成22年度業務・会計監査報告書
 拍手により承認された。
- 第3号議案 平成23年度事業計画(案)**
 総務担当相見理事より説明
 学校法人日本医科大学共催による母校創立130周年記念事業に対する支援・協力であり、母校創立130周年記念式典・祝賀会(於…帝国ホテル)へ同窓会役員の全員参加を目標とし、大学と日程の調整を行いました。そのため、例年とは異なりますが、代議員会を9月17日(土)に開催し、翌18日の式典・祝賀会に参加する企画とさせて頂きました。参加予定者数は代議員会参加者を含め300名ですが、社会状況と経済状況と相まって一般からの参加希望者が少なく、参加再募集の要請をしています。
- 今年度は、次の10年後の母校創立140周年に向け母校発展の礎となる母校創立1

全国支部総会への派遣 (20支部)

支部名	派遣	日時
福島県支部	中條会長	平成22年7月11日(日)
大阪支部	中條会長	平成22年7月31日(土)
新潟支部	寺田理事	平成22年8月7日(土)
栃木県支部	中條会長	平成22年8月8日(日)
兵庫県支部	中條会長	平成22年9月4日(土)
四国支部	中條会長	平成22年9月4日(土)
群馬県支部	中條会長	平成22年9月19日(日)
宮城県支部	中條会長	平成22年9月20日(月)
埼玉県支部	中條会長	平成22年9月26日(日)
広島県支部	原田先生	平成22年10月3日(日)
茨城県支部	中條会長	平成22年10月8日(金)
山梨県支部	清水先生	平成22年10月12日(火)
千葉県支部	新井先生	平成22年10月17日(日)
神奈川県支部	宮崎理事	平成22年10月17日(日)
香川県支部	中條会長	平成22年10月30日(土)
熊本県支部	中條会長	平成22年11月6日(日)
長野県支部	筒井先生	平成22年11月27日(土)
九州支部	中條会長	平成22年11月27日(土)
武蔵野三鷹支部	中條会長	平成23年2月18日(金)
島根県支部	中條会長	平成23年3月20日(日)

30周年記念事業である応用生命科学部と獣医保健看護学科の施設整備の充実を図る事業に絶大な支援協力をお願い致します。まことに厳しい社会状況下で、心苦しいのですが、母校創立130周年までの10年間の母校への同窓会の協力が母校の安泰に貢献できたものと確信しております。10年後に憂いを残すことのないよう、母校創立130周年記念事業への支援協力を重ねてお願い申し上げます。

本年5月の常務理事会で決定した、東日本大震災による被害者に対するお見舞いは、被災支部会員の現状把握ができない状況なので、支部の活動が通常に行える状況待ちを遂行したいと思っております。支部役員

- ご協力をお願い致します。
- 実施事業予定**
- 1 平成23年度代議員会…平成23年9月17日(土) 母校B棟3階313講義室にて開催
- 2 母校創立130周年記念式典、記念講演、記念祝賀会への協賛
- 3 母校創立130周年記念募金事業への協賛
- 4 同窓会館設立準備
- 5 役員会および委員会等の開催
- 6 支部強化活動
- (1) 代議員非派遣支部に対するオブザーバー派遣要請
- (2) 支部会への役員派遣



- 7 同窓会誌発行
- 8 同窓会会報42号発行
- 9 同窓会会則の見直しと方向性
- 10 大学への支援
- (1) 梅野信吉賞への記念楯・副賞を贈呈
- 11 学生会員(準会員)への関連事業
- (1) 入学祝い
- (2) 卒業祝い
- (3) 同窓会褒賞者の表彰・記念品の贈呈
- (4) 大学祭への援助
- (5) 奨学生候補者の選考
- (6) 就職活動支援
- 12 その他

第 2 号議案 平成22年度収支決算

平成22年度一般会計収支計算書

平成22年 4 月 1 日から平成23年 3 月 31 日まで

収入の部 (単位：円)				
科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
1 同窓会費収入	7,200,000	6,711,000	489,000	2,237(H22 年 1,264 + H21 年 966 + 他 7) 口 × 3,000 円
2 入会金収入	19,050,000	19,050,000	0	50,000 円 × 381 名
3 諸収入	8,118,104	8,198,754	△ 80,650	
受取利息	4,000	3,450	550	普通預金の金利のみ
寄付金	60,000	51,200	8,800	
名簿発行積立金取崩	8,044,104	8,044,104	0	
雑収入	10,000	100,000	△ 90,000	
当期収入合計(A)	34,368,104	33,959,754	408,350	
前期繰越金	6,808,689	6,808,689	0	
収入合計(B)	41,176,793	40,768,443	408,350	

第 4 号議案 平成23年度収支予算 (案)

平成23年度一般会計収支予算書 (案)

平成23年 4 月 1 日から平成24年 3 月 31 日まで

収入の部 (単位：円)				
科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異	摘 要
1 同窓会費収入	7,200,000	7,200,000	0	本年度 1,600 口、過年度 800 口
2 入会金収入	19,250,000	19,050,000	200,000	50,000 円 × 385 名
3 諸収入	4,114,321	8,118,104	△ 4,003,783	
受取利息	4,000	4,000	0	
寄付金	10,000	60,000	△ 50,000	
名簿発行積立金取崩	0	8,044,104	△ 8,044,104	
奨学基金取崩	500,000	0	500,000	
記念事業積立金取崩	3,500,321	0	3,500,321	
雑収入	100,000	10,000	90,000	
当期収入合計(A)	30,564,321	34,368,104	△ 3,803,783	
前期繰越金	10,522,943	6,808,689	3,714,254	
収入合計(B)	41,087,264	41,176,793	△ 89,529	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
1 事業費	23,000,000	17,088,322	5,911,678	
会誌発行費	0	0	0	
名簿発行費	9,000,000	8,650,481	349,519	12,400 冊印刷
会報発行費	4,500,000	2,377,486	2,122,514	12,400 部印刷 (会報 40 号、41 号)
事業推進費	200,000	0	200,000	
支部助成費	700,000	591,300	108,700	44 支部分 1,971 口 × 300 円
学生会員援助費	3,700,000	4,112,500	△ 412,500	入学祝品 (H22.23 年)、同窓会長賞、大学祭援助、卒業祝品
学術振興費	1,200,000	1,130,000	70,000	母校学術交流会、梅野賞 (H21.22 年)
就職対策費	200,000	0	200,000	学生会員就職対策
渉外費	300,000	179,700	120,300	法人交流会会費等
慶弔費	200,000	46,855	153,145	
記念事業準備費	3,000,000	0	3,000,000	
2 会議費	5,000,000	3,432,882	1,567,118	
代議員会議費	4,000,000	2,848,400	1,151,600	代議員旅費等
役員会議費	1,000,000	584,482	415,518	役員旅費等
3 事務費	7,400,000	4,167,677	3,232,323	
事務手当	4,000,000	2,546,120	1,453,880	事務手当、アルバイト料等
旅費	1,500,000	910,780	589,220	20 支部派遣
印刷費	200,000	48,422	151,578	コピー機のリース代等
通信費	300,000	183,914	116,086	郵便料、電話代等
振替手数料	100,000	54,000	46,000	振替料、振込料
器具備品費	300,000	82,350	217,650	プリンター、外付け HDD 等
ホームページ管理運営費	800,000	212,560	587,440	HP 管理費 2 ヶ月分等
消耗品費	100,000	88,376	11,624	事務用品等
雑費	100,000	41,155	58,845	残高証明等
4 特別会計繰入金	4,391,630	4,556,619	△ 164,989	
名簿発行引当金	10,000	10,000	0	
会館建設引当金	2,000,000	2,000,000	0	
奨学基金引当金	10,000	10,000	0	
退職給与引当金	102,200	102,200	0	
記念事業積立引当金	2,000,000	2,000,000	0	
減価償却引当金	269,430	434,419	△ 164,989	
5 固定資産取得費	0	500,000	△ 500,000	HP 開発コンテンツ一式
6 予備費	1,385,163	500,000	885,163	口蹄疫発生義援金 (宮崎県獣医師会)
当期支出合計(C)	41,176,793	30,245,500	10,931,293	
当期収支差額(A-C)	△ 6,808,689	3,714,254	△ 10,522,943	
次期繰越収支差額(B-C)	0	10,522,943	△ 10,522,943	

支出の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	差 異	摘 要
1 事業費	23,200,000	23,000,000	200,000	
会誌発行費	3,500,000	0	3,500,000	会誌印刷、発送等
名簿発行費	0	9,000,000	△ 9,000,000	
会報発行費	2,500,000	4,500,000	△ 2,000,000	会報印刷、同窓会ニュース、発送等
事業推進費	200,000	200,000	0	
支部助成費	700,000	700,000	0	45 支部分
学生会員援助費	4,200,000	3,700,000	500,000	入学祝品 140 万円、卒業祝品 150 万円、大学祭 70 万円、表彰 10 万円、学生支援 50 万円
学術振興費	900,000	1,200,000	△ 300,000	母校学術交流会、梅野賞 30 万円など
就職対策費	200,000	200,000	0	学生会員就職対策
渉外費	300,000	300,000	0	法人母校等との折衝費
慶弔費	200,000	200,000	0	
東日本災害支援金	2,000,000	0	2,000,000	岩手、宮城、福島など
記念事業費	8,500,000	3,000,000	5,500,000	130 周年記念式典 (平成 23 年 9 月 18 日)
2 会議費	5,500,000	5,000,000	500,000	
代議員会議費	5,000,000	4,000,000	1,000,000	代議員旅費等
役員会議費	500,000	1,000,000	△ 500,000	役員旅費等
3 事務費	6,300,000	7,400,000	△ 1,100,000	
事務手当	3,500,000	4,000,000	△ 500,000	事務手当、アルバイト料、通勤費等
旅費	1,300,000	1,500,000	△ 200,000	支部派遣
印刷費	200,000	200,000	0	封筒、コピー代、振替用紙等
通信費	300,000	300,000	0	郵便料、電話代等
振替・振込手数料費	100,000	100,000	0	郵便振替、銀行振込
器具備品費	100,000	300,000	△ 200,000	事務機器など
ホームページ管理運営費	500,000	800,000	△ 300,000	
消耗品費	100,000	100,000	0	事務用品類など
雑費	200,000	100,000	100,000	残高証明など
4 特別会計繰入金	5,494,483	4,391,630	1,102,853	
名簿発行引当金	2,000,000	10,000	1,990,000	
同窓会館積立引当金	3,000,000	2,000,000	1,000,000	
奨学基金引当金	10,000	10,000	0	
退職給与引当金	102,200	102,200	0	
記念事業積立引当金	0	2,000,000	△ 2,000,000	創立 130 周年記念準備 (H23 年 5 月 10 日予定)
減価償却引当金	382,283	269,430	112,853	
5 予備費	592,781	1,385,163	△ 792,382	
当期支出合計(C)	41,087,264	41,176,793	△ 89,529	
当期収支差額(A-C)	△ 10,522,943	△ 6,808,689	△ 3,714,254	
次期繰越収支差額(B-C)	0	0	0	

財産目録
平成23年3月31日

(単位：円)

科 目	金 額	金 額	金 額
I. 資産の部			
1. 流動資産			
(1) 現 金	50,000		
(2) 普 通 預 金	33,528,235		
①三菱東京UFJ銀行(3935838)	1,638,345		
②三菱東京UFJ銀行(1324284)	451,552		
③三菱東京UFJ銀行(1233022)	8,056,017		
④三菱東京UFJ銀行(5015167)	7,566,538		
⑤三菱東京UFJ銀行(5015159)	287,954		
⑥三菱東京UFJ銀行(0052823)	3,500,321		
⑦三菱東京UFJ銀行(1741549)	12,027,508		
(3) 定 期 預 金	50,140,000		
①三菱東京UFJ銀行(0002747)	50,140,000		
(4) 郵 便 振 替	735,385		
(5) 未 収 金			
流動資産合計		84,453,620	
2. 固定資産			
(1) 土 地 建 物	0		
(2) その他の固定資産(什器備品及びパソコン、ソフト)	774,987		
固定資産合計		774,987	
資産合計			85,228,607
II. 負債の部			
1. 流動負債			
(1) 未 払 金	0		
(2) 前 受 金	0		
流動負債合計			0
2. 固定負債			
(1) 名簿発行引当金	11,913		
(2) 同窓会館引当金	58,800,300		
(3) 奨学基金引当金	7,566,538		
(4) 退職給与引当金	287,954		
(5) 記念事業引当金	3,500,321		
(6) 減価償却引当金	3,659,917		
固定負債合計		73,826,943	
負債合計			73,826,943
正味財産			11,401,664

拍手により承認された。

第4号議案 平成23年度収支予算(案)

経理担当寺田理事より説明

平成23年度一般会計収支計算書…資料参照

拍手により承認

議長…ありがとうございます。これをもちまして議長職を終わらせていただきます。

閉会・事務局長より閉会が宣言され終了した。

なお、今年度の代議員会の懇親会は明日母校創立130周年記念祝宴が開催される

ため中止となった。

事務局だより

○同窓会本部への連絡

通常、土日祝日を除く午前10時から午後4時まで事務員が勤務しています。それ以外の時間は留守番電話、ファクシミリ、郵便、Eメール等でご連絡下さい。連絡先は本会報一面に記載してあります。

○会費納入のお願い

本会の事業は、会員の会費納入によって運営されております。今年度発行予定の同窓会誌、平成25年発行の会員名簿等は会費納入者に無料配布されます。本会報に振込用紙が同封されている場合は個人で会費納入をお願いいたします。なお、振込用紙が同封されていない場合は支部の指示に従って納入願います。郵便局から振り込む取扱票にはお忘れなく郵便番号、住所、氏名を記載し、通信欄には卒業学科と卒業期(封筒の住所ラベルの区分)記載してください。住所等変更のある方は変更有りに丸印してください、住所録の変更を致します。

○本年年会費一括納入支部へのお願い

本年会費を一括納入された支部は、会費納入者名簿を事務局へ郵送、ファクシミリ、メールでお送り下さい。

○住所録変更届け

住所、氏名、職業等の変更はハガキ、ファクシミリ、メール、同窓会ホームページなどから変更届けをご提出してください。電話での連絡は記載ミスなどの要因となりますのでご遠慮ください。登録変更は原則として個人申告となっておりますが、支部、同期会、友人からの届け出も受け付けております。

○同窓会誌発行

母校創立130周年を記念した同窓会誌を、来年3月発行を目標に準備を進めております。同窓会の歴史、支部会の活動状況、母校創立130周年行事などを主に編集を進めています。なお、この会誌は本年年会費納入者を対象にお送りいたします。

○次に該当される方は本部へご連絡ください

他大学で博士号、修士の学位を授与された方。国会議員、市町村長、県議会議員等に選出・再選された方。叙勲を授与された方、ご逝去された方など。情報提供者を特定できるよう電話以外にてご連絡下さい。

○母校創立130周年記念事業について

昨年11月、学校法人日本医科大学理事長、日本獣医生命科学大学学長、同窓会会長の連名で募金趣意書が届けられたと思えます。同窓会では母校創立130周年記念事業を成功させるため、記念事業関係者と会合を開き、より多くの同窓生の賛同を得られるよう独自の募金方針を模索しております。同窓会の方針が決定次第、詳細をお送りいたします。その節は多くの会員に参加して頂きたくお願いいたします。

○支部会・同期会の報告をお願いします

開催報告近況と共に写真を送って下さい。可能な限り会報や同窓会誌に掲載致します。

同窓会関係情報

学位(博士)取得者

○平成23年秋生存者叙勲(平成23年11月10日)

大学 8 期 紺野 耕【瑞宝中綬章】

○議員当選者

獣医 24 期 竹下 博英 秋田県議会議員

(二期目)

食品 24 期 佐藤 芳忠 大館市議会議員

○訃報

醍醐正之名誉教授(獣医大 1 期、平成 21 年 2 月 13 日逝去)

学位(博士)取得者一覧(平成22年7月~平成23年11月)

【獣医学専攻 博士課程】

学位記番号	氏名	学位授与年月日	所属教室
博獣甲第141号	糸井 崇将	平成 23 年 3 月 11 日	獣医外科学
博獣甲第142号	加藤 卓也	平成 23 年 3 月 11 日	獣医臨床繁殖学
博獣甲第143号	神野 信夫	平成 23 年 3 月 11 日	獣医外科学
博獣甲第144号	Balmunkh Olgonchimeg	平成 23 年 3 月 11 日	獣医公衆衛生学
博獣甲第145号	村中 志朗	平成 23 年 3 月 11 日	比較動物医学
乙第293号	小川 孝	平成 22 年 12 月 2 日	獣医衛生学
乙第296号	島山 仁	平成 23 年 1 月 7 日	比較細胞生物学教室
博獣乙第297号	浦野 貴美代	平成 23 年 3 月 11 日	獣医外科学
博獣乙第298号	大村 知之	平成 23 年 3 月 11 日	獣医放射線学
博獣乙第299号	豊田 洋治	平成 23 年 3 月 11 日	獣医内科学
博獣乙第300号	山口 伸也	平成 23 年 3 月 11 日	獣医外科学
博獣乙第301号	渡邊 一夫	平成 23 年 3 月 11 日	獣医臨床繁殖学
博獣乙第302号	佐々木 崇	平成 23 年 11 月 25 日	獣医衛生学
博獣乙第303号	波多野 豊	平成 23 年 11 月 25 日	獣医生理化学

【応用生命科学学専攻 博士後期課程】

学位記番号	氏名	学位授与年月日	所属教室
博応甲第1号	李 周煥	平成 23 年 3 月 11 日	動物栄養学

先生は家畜解剖学教室教授を平成5年3月に退職されました。一見、気むずかしいようですが、いつもポジティブ思考で「解剖の一刀は教授の努め」のひとことが今も心にのこっています。(獣医解剖学教室 尼崎肇教授談)

高橋敏夫教授(獣医大26期、平成23年10月3日逝去)

獣医微生物学教室の教授であった高橋敏夫教授は、本学の獣医学科を私と共に卒業した同期生であります。農水省動物医薬品検査所を退職後、昨年4月に本学の教授に就任し、私にとっても大きな喜びであったことから、彼の急逝は残念でなりません。御冥福をお祈り致します。(獣医臨床繁殖学教室 河上栄一教授談)

高橋勇同窓会顧問・名誉教授(専門7期、平成23年10月13日逝去)

高橋勇名誉教授は、昭和39年農林省家畜衛生試験場から母校に赴任されました。同窓会事務局長を永年務められ、昭和57年荒木同窓会長を先頭に小野田移転反対を全国的に展開しました。小野田移転中止から30年が過ぎ、武蔵境校地で130周年に相応しい教育研究施設が整備され大変喜ばれておりました。身を挺して母校を守った姿勢は先生の母校愛であったと思います。合掌(同窓会会長 中條眞二郎談)

私が高橋勇先生に初めてお会いしたのは学生時代の獣医微生物学での講義でした。講義されていた病原微生物に興味を持ち、入室する研究室は獣医微生物学教室を選択し、卒論と修論を仕上げる実験等では大変お世話になったことを思い出します。ここに謹んで高橋勇先生のご冥福をお祈りいたします。(獣医微生物学教室 片岡康准教授談)

高橋正治名誉学長(平成23年11月11日逝去)

先生は、昭和61年から平成5年まで学長として日本獣医生命科学大学の発展に貢献されました。平成12年には勲三等旭日中綬章の榮譽に浴され、多くの関係者が一堂に会したのもつこの間のようになっています。多くの薫陶を受けてきた者として、まことに寂寥の感を禁じえないところであります。(食品経済学教室 佐々木輝雄教授談)

第28回学術交流会開催予告

来年度の日本獣医生命科学大学研究交流会は、愛知県支部・中部地区の同窓生の協力の下、名古屋市において今年秋に開催する予定で準備を進めている。開催の詳細が決定次第個人宛に郵便、あるいは同窓会ホームページにて案内します。皆様の奮ってのご参加を期待しています。

学術交流会責任者：獣医保健看護学科 左向敏紀教授(0422-31-4151 内線352)

母校入学試験結果

平成23年度母校入学試験の倍率および地区別の入学者数は次のような結果であった。平成23年度入試では獣医学科の一般入試(第一回)の入試方法が大きく変更となりました。センター試験「英語(筆記のみ)」・センター試験「数学I・A」「数学II・B」を必須とし、本学試験「理科」が生物・化学・物理の中から1科目選択となります。一般入試(第二回)においては従来通り本学試験「英語」、「数学」(必須)「理科」(生物・化学・物理より1科目選択)です。獣医保健看護学科・動物科学科・食品科学科の一般入試(第一回)では、試験

平成 22 年度入試 入学試験結果

平成23年度母校入学試験結果

試験区分	学科	志願者数		受験者数		合格者数		倍率
		平成23年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度	平成23年度	平成22年度	
〈推薦〉	獣医	111	95	107	93	21	22	5.10
	保健看護	76	65	76	64	27	25	2.81
	動物	37(1)	43(4)	37(1)	42(4)	26(1)	25(4)	1.42
	食品	29(15)	37(12)	29(15)	37(12)	29(15)	27(12)	1.00
〈社会人〉	獣医	9	8	7	8	1	2	7.00
	保健看護	0	0	0	0	0	0	0.00
	動物	0	0	0	0	0	0	0.00
	食品	0	0	0	0	0	0	0.00
〈帰国〉	獣医	3	2	3	0	1	0	0.00
	保健看護	0	1	0	1	0	1	0.00
	動物	1	0	1	0	1	0	1.00
	食品	0	0	0	0	0	0	0.00
〈後継者〉	獣医	8	16	8	15	5	5	1.60
〈学士〉	獣医	43	29	43	29	3	3	14.33
	保健看護	0	1	0	1	0	0	0.00
	動物	0	1	0	1	0	0	0.00
	食品	0	0	0	0	0	0	0.00
推薦 + 特別	(小計)	317	298	311	291	114	110	—
第 1 回 一般 入試	獣医	926	1,259	924	1,198	105	98	8.80
	保健看護	420	370	415	363	103	115	4.03
	動物	410	444	403	436	140	138	2.88
	食品	247	233	241	225	117	135	2.06
	(小計)	2,003	2,306	1,983	2,222	465	486	—
センター試験	獣医	381	246	381	246	45	44	8.47
	保健看護	201	148	201	148	40	58	5.03
	動物	172	104	172	104	21	20	8.19
	食品	127	91	127	91	20	20	6.35
	(小計)	881	589	881	589	126	142	—
第 2 回 一般 入試	獣医	491	424	408	378	16	17	25.5
	保健看護	74	77	72	72	8	8	9.00
	動物	105	62	101	54	5	26	20.20
	食品	60	71	50	65	9	8	5.56
	(小計)	730	634	631	569	38	59	—
総合計		3,931	3,827	3,806	3,671	743	797	—

学科コード	地区	入学者数
獣医学科	北海道	1
獣医学科	東北	2
獣医学科	関東甲信越	64
獣医学科	東海	5
獣医学科	近畿	9
獣医学科	中国	1
獣医学科	四国	6
獣医学科	九州・沖縄	7
獣医学科	その他	1
獣医保健看護学科	北海道	2
獣医保健看護学科	東北	2
獣医保健看護学科	関東甲信越	82
獣医保健看護学科	東海	4
獣医保健看護学科	近畿	4
獣医保健看護学科	中国	2
獣医保健看護学科	九州・沖縄	4
獣医保健看護学科	その他	1
動物科学科	北海道	1
動物科学科	東北	2
動物科学科	関東甲信越	83
動物科学科	東海	3
動物科学科	近畿	1
動物科学科	中国	2
動物科学科	四国	1
動物科学科	九州・沖縄	2
動物科学科	その他	2
食品科学科	北海道	1
食品科学科	東北	1
食品科学科	関東甲信越	83
食品科学科	東海	1
食品科学科	近畿	1
食品科学科	四国	1

平成23年度入学者数	
獣医学科	99 名
獣医保健看護学科	101 名
動物科学科	97 名
食品科学科	88 名
合計	385 名

※ () 内は指定校推薦数
 ※第 2 回一般入試は追加合格者を含む
 ※獣医学科の入学者数は学士 (2 年次入学) 含む

平成24年度母校一般入学試験日程について

第一回 一般入試

出願受付

平成24年 1 月 5 日～27日

試験日

獣医学科：平成24年 2 月 5 日 (日)

会場：母校、大阪

動物科学科、食品科学科、獣医保健看護学科：

平成24年 2 月 6 日 (月)

会場：母校、大阪、仙台、札幌、広島

第二回 一般入試

出願受付

平成24年 2 月13日～ 3 月 2 日

試験日

全学科：平成24年 3 月15日 (木)

会場：母校

詳細については教務課入試係 (TEL 0422-31-4151) までお問い合わせください。
 なお、日獣大ホームページ (http:// www.nvlu.ac.jp) から入試出願状況速報などが確認できます。

会場を東京 (本学)、大阪 (天満研修センター)、仙台 (仙台ガーデンパレス) に加え、北海道 (札幌ガーデンパレス)、広島 (ホテルグランヴィア広島) の五会場から選択することが可能となりました。
 平成24年度募集定員は、獣医保健看護学科と動物科学科においてそれぞれ、平成23年 8 月29日付にて文部科学省より認可され80名から100名に増員されました。

母校近状

学生表彰

学長賞、社団法人日本獣医師会褒賞、同窓会長賞は各最終学年の学生を対象として選出され、武蔵野賞は各学年から3名が選出される。櫻賞は年間を通して活躍した団体に贈られます。授与は、最終学年は学位記授与式にて表彰され、在学生は入学式にて表彰された。対象は平成22年12月～平成23年11月までである。

(1) 学長賞

獣医学科 飯森 麻衣

獣医保健看護学科 丸山 基世

動物科学科 丸山 徹歩

食品科学科 真壁 友里子

(2) 社団法人 日本獣医師会褒賞

獣医学科 岩網 慶

(3) 同窓会長賞

獣医学科 吉澤 円

獣医保健看護学科 内田 翔子

動物科学科 樋口 彩香

食品科学科 斎藤 恵美

(4) 武蔵野賞

獣医学科 2年 内山 莉花

同 林 麻央

同 杉浦 壮太

獣医学科 3年 越智 葵

同 萩原 文乃

同 岡 美沙樹

獣医学科 4年 戸上 絵理

同 竹下 恭平

同 池谷 早代

獣医学科 5年 赤津 佳菜子

同 鶴飼 正保

同 田中 優

獣医学科 6年 八木 智子

同 佐藤 由佳

同 北村 鮎美

獣医保健看護学科 2年 原田 葉

同 石田 美保

同 和田 藍果

獣医保健看護学科 3年 生野 佐織

同 加藤 真理子

同 兼田 裕希

獣医保健看護学科 4年 石田 沙恵

同 岡村 恵里子

同 伊藤 麻衣

動物科学科 2年 前田 亮輔

同 小沢 聡恵

同 田島 広太

動物科学科 3年 岡崎 綾乃

同 福井 伶奈

同 金子 美里

動物科学科 4年 小渕 智子

同 西田 匡宏

同 長谷川 悦子

食品科学科 2年 宮本 友香

同 猪俣 今日子

同 宮崎 友佳

食品科学科 3年 安西 めぐみ

同 土屋 りえ

同 斉藤 善紀

食品科学科 4年 井上 航

同 佐々木 友理恵

同 野本 敦美

櫻賞 愛奏会

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

助手 澤田 治美 (付属動物医療センター)

○新任 (平成23年10月1日付) 特任教授 清水 一政 (獣医学部)

○昇任 (平成23年4月1日付) 教授 原 康 (獣医外科学)

土田 修一 (比較細胞生物学)

神谷 新司 (獣医保健看護学応用部門)

永松 美希 (食料自然共生経済学)

准教授 盆子原 誠 (獣医臨床病理学)

添田 聡 (獣医解剖学)

金田 剛治 (獣医薬理学)

塚田 晃三 (獣医病理学)

落合 由嗣 (獣医公衆衛生学)

青木 博史 (獣医保健看護学基礎部門)

牧野 ゆき (獣医保健看護学臨床部門)

吉田 達行 (動物遺伝育种学)

古田 洋樹 (動物遺伝育种学)

大橋 雄二 (食品衛生学)

講師 山本 一郎 (獣医生理化学)

○配置換 (平成23年4月1日付) 獣医保健看護学応用部門 教授 神谷 新司 (獣医解剖学)

○退職 (平成23年4月30日付) 助手 倉田 朋子 (付属動物医療センター)

○新任 (平成23年7月1日付)

○新任 (平成22年12月1日付)

○新任 (平成23年4月1日付)

○新任 (平成22年12月1日付)

○新任 (平成23年7月1日付)

○新任 (平成23年4月1日付)

○新任 (平成23年7月1日付)

○新任 (平成23年7月1日付)

○新任 (平成23年7月1日付)

○新任 (平成23年7月1日付)

○新任 (平成23年7月1日付)

○退職(平成23年10月3日付)

教授

高橋 敏雄(獣医微生物学)

○定年退職(平成23年3月31日付)

教授

清水 一政(獣医薬理学)

廣瀬 昶(獣医内科学)

織間 博光(獣医放射線学)

筒井 敏彦(獣医臨床繁殖学)

原田 隆彦(比較細胞生物学)

講師

浅田 忠利(獣医保健看護学応用部門)

○名誉教授の称号授与(平成23年4月1日付)

教授

清水 一政

廣瀬 昶

織間 博光

筒井 敏彦

原田 隆彦

■平成22年度

獣医師国家試験について

第62回獣医師国家試験は平成23年2月22、23日に行われ、その結果が3月18日に発表された。

本学の新卒者95名のうち86名が合格し、合格率は90・5%(新卒者の全国平均は90・8%)であった。全16大学中11番目、私立

5大学中3番目という成績であった。

今年度は各大学の成績が非常に接近しており100%合格の大学もない代わりに(1番目は東京大学の97%)、合格率80%以下の大学もなかった。前年度の87名中86名合格(98・9%、16大学中3番目、私立5大学中1番目)という成績に比べると著しく成績が悪化したように見えるが、前年度は全体の合格率も92・3%と高く、比較的問題がやさしかった年と考えられ、今年度の成績が特段悪いとは考えていない。

昨年から国家試験が2月20日前後に実施されるようになり、従来に比べ2週間程度早まったので、それに併せて所謂卒業試験に相当する「総合獣医学」試験や卒業論文提出の日程を早めるよう対策を取っており、昨年度からの成績を見る限り、こうした一連の対応策は国家試験にはプラスに作用していると考えられる。

23年度の国家試験(第63回)は平成24年2月21、22日に実施が予定されている。今年度は、新校舎の建設に伴い学内で獣医学科のいくつかの教室の引っ越しなどあり、国家試験対策室も移動せざるを得ず、国家試験準備に何がかのの影響が出ることも心配されるが、例年以上に土曜学校を数多く開催する、総合獣医学試験日程を学生の試験勉強に支障のないよう配慮するなど対応する予定で、好成績が収められることを期待している。

■第27回

学術交流会が開催された

当初今年度の学術交流会は、母校創立130周年記念事業の一環として開催する案もあった。しかし、会場および開催時間の調整がつかず平成23年9月17日(土)、同窓会理事・監事会と代議員会の昼食時間を利用して母校B棟にてランチョンセミナーとして開催された。今回は第3回、第4回の梅野信吉賞受賞者の盆子原準教授および小澤准教授の講演が行われた。学長、母校教員、同窓生役員・代議員多数の参加があり有意義な交流会となった。

■平成22年度

梅野信吉賞受賞者決定

平成22年度(第4回)梅野信吉賞は、応用生命科学部動物科学科システム経営学・小澤壯行准教授が受賞した。授賞テーマは「山羊製品の需要検証と市場開発及び生産システム構築に関する研究」であった。

過去3回の受賞者は獣医学部獣医学科の教員であり、自然科学研究をテーマとするものであった。今回の小澤先生は、応用生命科学部教員として、また社会科学部研究をテーマとするものとしては初めての受賞となる。本学で行われた優れた研究成果を顕

彰するという「梅野信吉賞」の設定趣旨から考えて、獣医学科以外から小澤先生が受賞されたことは、本賞の発展のために喜ばしいことである。また、小澤先生は今年度の「日本畜産学会賞」を今回の受賞テーマに連なる研究内容で受賞しており、本学にも優れた社会科学部研究者が在籍していること、同時に権威ある学会賞の受賞者を同年に学内最高の研究者表彰である梅野信吉賞受賞者として顕彰できたことにより本賞の存在を世に知らしめることができたという点で、非常に意味ある受賞であったと考え

る。小澤先生の研究は畜産物としてはマイナーな山羊製品に焦点をあて、その重要性、可能性を学術的に検証した意義ある研究と学会でも高く評価されている。国内ではマイナーであるが海外に目を向けると山羊製品は非常に広く流通しており、小澤先生の研究は、ご自身の留学先であるニュージーランドはじめ諸外国ではもとより高い評価を受けていた内容であり、国内でもようやくその重要性が認められたということになる。山羊製品の研究を国内だけでなく、広く海外で通用するレベルまで高めたのは小澤先生の慧眼であろう。

今回の受賞内容は、本年9月17日に本学で開催された「学術交流会」の梅野信吉賞受賞者講演会で一部披露され、そのユニークな研究内容に改めて感心させられた次第である。

■平成22年度 卒業生進路動向

平成22年度卒業生の進路動向を学科別に見ると次のような結果であった。

獣医学科では就職者のうち小動物臨床の獣医師就職者が73・2%であるが、公務員、産業動物獣医師の就職者が23・9%と徐々に上昇している傾向となった。

獣医保健看護学科では就職者のうち例年どおり小動物臨床の動物病院看護師に54・4%となったが、製薬会社への就職が19・1%となり人気傾向である。

動物科学科では就職者のうち畜産業・農業関係・製造業へ41・8%就職しているが、職種への偏りなく、公務員等も含め幅広く就職している。

食品科学科では就職者のうち食品製造業が52%と多く、生産・製造・研究に関する事故の学業の目指してきた職種に就職している。

最終的な就職希望者の就職率は、獣医学科84・5%、獣医保健看護学科93・2%、動物科学科96・4%、食品科学科92・6%となり、高い水準を維持している。

また院生として進学を志す卒業生は、他大学院も含め、獣医学科100%、獣医保健看護学科91・7%、動物科学科100%、食品科学科86・7%となった。

■平成22年度 学位記授与式

平成23年3月11日（金）午前10時から、日本獣医生命科学大学「平成22年度学位記授与式」がアリーナ（体育館）において挙行された。

本年度から、学部と大学院の授与式が分離挙行となり、午前中に学部、午後には大学院の授与式がそれぞれ行われた。

午前中の学部学位授与式では、獣医学科99名、獣医保健看護学科90名、動物科学科72名、食品科学科73名の合計334名に学位記が手渡された。



卒業生へ祝辞を述べる中條会長

■平成23年度 入学式

平成23年4月6日（水）午前10時から「日本獣医生命科学大学入学式」がアリーナ（体育館）において挙行された。

本年度は東日本大震災による被災された方への配慮から、簡素な形で取り行われた。

獣医学科99名（学士3名を含む）、獣医保健看護学科101名、動物科学科97名、食品科学科88名、獣医学専攻博士課程7名、獣医保健看護学専攻博士前期課程8名、同後期課程3名、応用生命科学専攻博士前期課程11名、同後期課程1名の合計415名が入学した。

午後からの大学院学位授与式では、獣医生命科学研究所獣医学博士課程修了者及び論文審査合格者10名、獣医保健看護学専攻修士課程修了者10名、応用生命科学専攻博士前期課程修了者11名、同博士後期課程修了者1名の合計32名に学位記が手渡された。

大学院学位授与式最中の14時46分、東日本大震災が起き未曾有の大震災となった。その影響で、学部卒業生が予定していた全ての謝恩会は中止となった。また、鉄道の運休などで帰宅できない家族を含めた約80名がアリーナでの宿泊を余儀なくされた。



■平成23年度 動物慰霊祭挙行について

平成23年11月1日(火)正午より本学中庭の「仁畜の碑」前にて、平成23年度動物慰霊祭が、無宗教献花方式をもってしめやかに執り行われた。

開式の言葉に続き黙祷が捧げられ、池本学長及び学生代表 栗原愛奏会会長より、追悼の言葉が読み上げられた。さらに、池本学長、今井大学院獣医生命科学研究所科長、新井獣医学部長、阿久澤応用生命科学部長、多川動物医療センター院長、麻生牧場長、菅原生命科学共同研究施設長、鈴木動物実験委員長、栗原学生代表による指名献花の後、教職員、学生等約300名の参加者が、動物達の冥福を祈った。



■平成23年度 日獣祭を開催

平成23年11月5日(土)～6日(日)の2日間にわたり開催された。

一日目は晴天の中、ミニミニ牧場を始め、伝統の牛ふん投げや空手道部の演武などが行われ、訪れた沢山のお客様を楽しませていた。

二日目は生憎の天気となったが、恒例のペットショーが開催され、その他練習成果を披露する演奏や演武、展示等数多くのイベントが行われた。

←アリーナ前の広場会場ステージ



■平成23年度 体育祭を開催

平成23年10月19日(水)武蔵野陸上競技場において、学生約300名が参加し、体育祭が行われた。各チームとも、急に冷え込んだ秋の空気を吹き飛ばすような、熱い戦いを繰り広げた。



学紀百三十周年の回想

日本獣医生命科学大学学長

池本 卯典



日本獣医生命科学大学の前身私立獣医学校は130年の昔、9名の陸軍獣医官達が、17名の青年達を集め、現在の文京区音羽にある天下の名刹護国寺で呱呱の声を上げました。護国寺は動物との所縁は深く、犬公方と呼ばれた5代將軍徳川綱吉公が生母桂昌院の発願により、天和元（1681）年2月、上野国（群馬県）碓氷八幡宮の別当大聖護国寺の亮賢僧正を招き建立された寺院です。しかし9月に開校して11月末の馬体解剖の開始に当り、寺側からのクレームがきました。護国寺創建から200年後とはいえ、《生類憐みの令》を天に布した犬公方徳川綱吉公によって建立された寺院とすれば、蓋し当然の成行きだったでしょう。私立獣医学校は致し方なく、現在の文京区小日向茗荷谷町19番地にあった戸田

子爵の豪邸の一隅を借りて移転したようです。

開校の経緯はすでに幾度か述べましたが、明治14（1881）年9月15日、弱冠21才の田沢直孝獣医官を創立代表に、陸軍軍医学舎出身のいづれも30才に満たない青年獣医官9名が相寄り、フランス獣医学を日本に移植され、後の東京鎮台獣医部長荒井義通獣医監を擁立して発足した日本最初の私立獣医学校でした。

以後、二度の休校、茗荷谷、市ヶ谷加賀町、河田町（現・東京女子医大）、目黒、現在地の武蔵境と、校舎移転は6回に及び、130年の風雪に耐えて今日があります。なお、先報の《日本獣医畜産大学創立80周年誌》によると、本学の発展過程は概略次のように区分してあります（若干加筆）。

第1期…小石川時代…私立獣医学校（明治14年から明治22年）

第2期…牛込時代…東京獣医学校・特別認可私立東京獣医学校（明治25年から明治35年）

第3期…目黒時代…日本獣医学校（明治44年から昭和12年）

第4期…武蔵境時代…日本高等獣医学校・日本獣医畜産専門学校（昭和13年から昭和27年）

第5期…武蔵境時代…日本獣医畜産

大学（昭和24年から平成17年）

第6期…武蔵境時代…日本獣医生命科学大学（平成18年から現在）

その間における本学発展の時代史は、すでに100周年・120周年記念誌の記録写真として刊行されていますが、護国寺における創立当初の写真記録は極めて少なく、創立総代の田澤直孝獣医官や校長に就任された荒井義通獣医監の面影を探すのに苦労した次第です（130年の追憶参照）。

その間における最大の変革は、昭和27年4月における学校法人日本医科大学との合併でしょう。まさに荆棘と改革の道程を辿りながらの軌跡が偲ばれます。創生期から戦中・戦後、そして平和な現代までの卒業生数16,000余名は国内のみならず、遠く世界に雄飛しておられます。

昭和20年8月15日、第二次世界大戦が終結し、軍事色の濃かった獣医学教育を平和と産業に貢献する獣医学教育に転換すると同時に、安心・安全な食糧の生産確保と流通に即応した畜産学科の再興と畜産食品工学科の新設が事始めでした。以来、多少の改革・改善を進め、平成年間に入り、文部科学省の規制緩和政策は、大学・学部・学科の増設を促し、受験生全員が合格できる大学大衆化現象を惹起しました。幸

い、本学は大学基準協会の認証評価、正会員資格等を経て、順調に推移しているところです。

平成15年代から本格的な変革を試み、学名を日本獣医生命科学大学に変更し、さらに応用生命科学部と獣医学部の二学部制をはじめ、畜産学科を動物科学科に、畜産食品工学科を食品科学科に変え、獣医保健看護学科の新設、定員増、動物医療センター、体育施設、学生厚生施設、教育棟の整備を進めて参りました。同時に、ハイテクリサーチ、学術フロントティア、研究基盤形成支援計画等に基づく文科省の支援を得て教育と研究の施設整備も進み、高度獣医療、人獣共通感染症、公衆衛生、産業動物育成、食育教育の展開等に寄与できる体制も整い、学生教育の質の向上に寄与しています。

なお、130周年記念事業として、食品・動物・獣医保健看護の各学科と医学部教養課程を収容する教育棟建設、東京大学田無農場の一部を買収し、馬場と運動場を移転する計画も進行中であります。

これらの計画と実践は、いづれも学校法人日本医科大学、本学の同窓会、父母会並びに教職員の皆様による後援の賜物であり、心からお礼申し上げます。同時に学紀130周年記

念に当り、学是《敬讓相和》に加え、孔子の箴言《克己復礼・己に克ちて礼に復す》を魂に銘じ、本学の発展に努める覚悟であります。今後とも何卒よろしく後支援下さい。

【追記】

平成23年5月10日、本学は「130年の宣言」をアリーナの前庭において、赫理事長、常務理事各位、同窓会長、教職員、学生等に列席して頂き宣言を行いました。宣誓文は《学紀130周年記念日に当り、日本獣医生命科学大学は学是である「敬讓相和」、到達目標である「愛と科学の聖業を培う」、教育理念として掲げる「愛と科学する心を持った獣医師及び生命科学の研究者並びに専門職の育成」に邁進することを誓い、ここに宣言します。》としました。

平成23年9月18日に、「創立130周年記念式典・講演会・祝賀会」を帝国ホテルにおいて、記念式典と祝賀会は「孔雀の間」、講演会を「富士の間」で行いました。記念式典には、常陸宮両殿下に臨席して頂き、鹿野農水大臣を主賓に、学・官・産の各界、同窓生・父母会・学生代表等約800名の出席を仰ぎ、盛會裡に終えることができました。



130周年の宣言をする池本学長

した。

なお、常陸宮両殿下をはじめ特別講演者の田原総一朗さん、司会の平野啓子さんのいずれも単なる依頼者ではなく、本学または本学関係者と深い絆のある方達であります。また、130周年記念行事費は、悉く学校法人日本医科大学の支援による施行であったことに心から感謝の意を表します。

母校130周年宣言

母校創立130周年記念祭の一環として、日本獣医生命科学大学・学紀130周年記念宣言が、平成23年5月10日（火）執り行われた。



← 130周年宣言式にて赫理事長の挨拶、出席した同窓会理事

午後12時より母校前庭において多数の教職員、学生、同窓会役員の出席のもと開催された。学校法人日本医科大学赫理事長のご挨拶のあと、池本学長より記念宣言がなされた。最後に合唱団あかとんぼが学歌を斉唱し閉会となった。

母校創立130周年記念祝賀会が盛大に開催される

平成23年9月18日（日曜日）午後5時より帝国ホテル孔雀の間において母校創立130周年祝賀会が開催された。当日は鹿野道彦農林水産大臣、文部科学大臣代理、石破茂衆議員議を初めとする衆議員議員、文部科学省、農林水産省、厚生労働省、各関係団体、





愛奏会の演奏する中会場へ

母校の姉妹校をはじめ日本医科大学教職員、母校教職員、同窓生など 800 余名の参加があった。

母校の吹奏楽団の奏でる音楽に迎えられる参加者は続々と会場に詰めかけた。

平野啓子アナウンサーの司会で始まり、池本学長の式典の報告と開会の辞、赫理事長挨拶、日本私立大学協会

会長、私立獣医科協会の会長、コンケン大学長、クイーンズランド大学副学長からの祝辞を頂いた。

続いて、母校に貢献された方々が表彰され、同窓会からは中條会長、斎藤副会長、藤田理事、寺田理事が受彰された。

宴は主催者および来賓による鏡開き



鏡開き



中條同窓会会長の表彰

により始まり、特製升による樽酒で乾杯が行われ、歓談時間は短い時間ではあったが、参加された同窓生 300 余名は懐かしい出会いなどで賑わった。

閉会前に、合唱団あかとんぼのOB参加による学歌斉唱が行われ大いに盛り上がる中、阿久沢応用生命科学部長の閉会の辞で幕を閉じた。



あかとんぼ OB による学歌斉唱